

ひびき



隔月刊

(題字 佐藤 寛)

令和6年5月31日号

特定非営利活動法人 福島・伊達精神障害福祉会 (通称：ひびきの会)
事務局：〒960-8055 福島市野田町2丁目5番9号 TEL 024-563-3304 FAX 024-573-2005

白鳥は北に帰り、新緑は風に薫り、鶯なく五月

理事長 相澤 與一

皆さん、GWは如何でしたでしょうか。お天気が良く暖かい行楽日和でした。皆さんは何処かにお出かけしましたか？

私は故郷の山形に弟と一緒に帰省しました。両親の墓参りに行き、健康な体で働けることに感謝し報告しました。

山形では美味しい山菜が沢山採れることもあり、わらび たけのこ、たら芽などお腹いっぱい自然の食を堪能してきました。

そんな中、GW中に山形では大きな山火がありました。なかなか鎮火せず、近くの住民は避難勧告が出たようです。今年に入り能登半島では大きな地震に見舞われ、多くの家屋が崩れてしまい胸が苦しい限りです。近年大きな地震が頻繁に起こり、また以前起こった東日本大震災のような地震がいつ起こるか分からないことから、日頃の防災知識を高め「備える」を大切に、これからも定期的に学んでいきたいと思ひます。

さて、私たちひびきの会が昨年10月1日に五月町から野田町に新築移転して早7ヶ月が過ぎました。私は福島駅からひ

びきまで歩いて通っています。足腰が丈夫なこともあり一日一万歩歩くこともあります。両親に健康な体を授かったことに感謝し、毎日を大切に過ごしていきます。ろんどやひびきを利用しているメンバーさんの中には、遠方から通う人たちもいて歩いて来る人もいます。新しい環境に慣れるまでには戸惑いもあり不安もあったと思いますが、皆さん今は元気に通所されています。

ひびきの職員不足による難儀はありましたが、ピアサポーター活動は伸びていることから、引き続き活躍の場を広げるためにも養成研修受講を行っていく予定です。

今後は通所者の送迎も取り入れていく予定も立てています。尚、ろんどのお弁当も好評で予定時間より早く完売することもあり近隣住民にも喜ばれているようです。そして職員の皆さんの活躍には沢山感謝しています。

通所者も、家族も、職員も、お互いに敬意をもって励ましあい、より良い福祉活動を発展させましょう。

施設代表 新年度挨拶

就労継続支援B型「ワークショップろんど」

所長兼生活支援員 丸子 良明

ワークショップろんどは就労継続支援B型事業所として生産活動などの就労訓練を提供しています。自分の希望や目標に応じてメンバーが主体的に活動しています。

令和5年度は登録利用者47名、延べ利用者7,857人が利用されました。支払工賃額は約555万円になり、昨年より50万ほど上がり平均工賃額も15,700円となりました。コロナ5類に移行し、経済活動が徐々に元通りになっていくことを期待していましたが、マスク着用も作業後のアルコール消毒もしながら対策は継続している状況です。請負作業も契約業者が破産し、作業が減る中で利用者職員が一丸となって新規開拓や出来ることを工夫し取り組めたことで継続的な供給に繋がりが良かったと思います。運営懇談会も2回開催し、前期は利用者のみ、後期は家族も交えて総勢65名の参加があり好評でした。

通所状況は皆勤賞を獲得する利用者が前年度

以上に増え、8名の方がグランド皆勤賞を獲得しました。移転先が以前の五月町より遠く通所に難があるという理由で退所した利用者がいましたが、逆に近くなった、距離が伸びたことが運動にもなって良いという意見もあり、見学者、体験者は増え続けています。そのため現在体験および新規受入は停止している状況で新規登録待機者もいます。今年度も健康増進プログラムは継続し、毎週水曜日に周辺をウォーキングしています。

11月からインスタ、ロコミで販路拡大させているろんどおべんとうは好評で、14時前に売り切れになることもありました。イベント等でも注文を頂いたり、今後も皆様のご期待に応えられるよう努めていきたいと思っています。令和6年度は送迎サービスも追加し、より良い事業所となるよう、利用者と一緒に運営して歩んでいきます。

地域活動支援センター「ひびき」

施設長兼支援員 光家 由美子

地域活動支援センターひびきは、令和5年度は58名の登録がありました。居場所や交流の場の提供として毎日のプログラム活動を実施しています。昨年10月に駅近くの五月町から野田町への移転に伴い登録者の通所者数が2割ほど減少して延べ5,513人でした。移転後は医療機関からの問い合わせや見学・体験の希望者が増えたことで、5名の新規登録に繋がりと、皆さんの居場所と地域生活の実現を支援しています。また、令和5年委託事業の家族教室はひびき通所者と家族のほか、一般市民の方も受講され好

評を得ました。

しかし、昨年度下期から相談支援専門員の人員不足から相談支援事業を行えず、これまでの地域活動Ⅰ型事業所を維持することが困難になりました。令和6年度は通所者の支援活動を軸にⅢ型事業所として新たなプログラム活動の検討を行い、利用者の皆さんにとって安心できる居場所・相談の場の提供と地域生活を支援しながら、利用者、家族、職員が集うことでこれからも共に成長を目指して行きます。



就労継続支援B型 「HANA」

管理者 高橋 一則

利用者の新規増減がなく今年度もスタートしたHANAです。コロナ禍の中にあっても、令和5年度は、積極的に販路拡大したこともあり、自主製品の収入が大きく伸びたため、利用者に12月と3月にボーナスを支給しました。令和6年度については、年3回のボーナス支給を目指します。なお、日立製作所についても新型コロナウイルス前までに回復しております。令和6年3月には、施設外就労として、りんご枝収集作業を実施しましたが、令和6年4月からはリンゴの摘花及び摘果作業を継続的に実施しております。また、日立製作所の自動車部品組立に加え、新しい定期的内職作業を一件以上獲得する目標で取り組み、利用者さんの時給、工賃アッ

プにつなげていきたいです。

また、社会的自立の一環として、職場実習の機会をいただける企業を探してまいります。職場実習は、HANAという施設の中での訓練、経験だけでなく、実習を通して企業に利用者のことをご理解いただく機会です。作業能力や対人コミュニケーション能力を磨き、経験してもらうことで、将来、いろんな企業に戦力として雇用してもらえるような働きかけを、HANAという事業所として展開していきます。

利用者さんが現状維持を交えつつ一步步安心して前に進んでもらえるようスタッフ全員が全力で支援に臨みます。どうぞよろしくお願い致します。

グループホーム風の樹は、定員12名に対し現在11名の方が利用されています。空室がひとつあるので、利用者の皆さんと仲良く生活していただける新しい入居者を募集しています。利用者の方々は、それぞれの目標に向けて、それぞれのスタイルで毎日を過ごしています。作業所を利用している方、地活やデイケアを利用している方、自分の時間を有意義に過ごしている方など様々です。

生活の基盤となる「住」に関する支援を日々行っており、近年では新型コロナウイルス

ス等の感染症対策も大事な支援となっています。利用者さんの中には年齢的に障がい分野だけにとどまらず、介護分野との連携が必要になってきている方もいます。

コロナ禍以降を入れてきた感染症対策は、皆さんの健康を守るために今後も継続していきます。そのなかで毎日を楽しく過ごしながらか、自分らしい生活とは何かをとともに考え、その実現に向けて努めていきたいと思っています。

地域活動支援センター「leaf」

施設長 渡邊 純子

地域活動支援センターleafは、平成26年伊達市に開所し今年度で11年目を迎えます。

また、令和6年4月1日から同法人HANAの2階へ移転し職員2名体制で新たなスタートとなりました。移転先は、以前より開放的な空間で広いベランダからの眺めも良く、季節を感じながらゆったりとした気持ちで過ごせると思います。法人内の伊達支部としては、HANAとleafの繋がりを利用者・職員共に持つことができると思います。今後は季節の行事など合同で開催することも計画し、HANAとの交流を深めたいと考えています。

現在leaf登録は13名となっています。利用者の方はそれぞれに合った通所の目的で利用しています。日中活動としては、午前のプロ

グラム活動と午後の居場所提供を行っています。好きなプログラム活動に参加される方、気持ちを休めのんびり過ごされる方、レクを楽しみにされている方など、利用者の方は自分のペースで上手に利用されています。他の事業所と併用されている方も多く利用頻度が少ない方もいますが、leafでは力を抜いて気分転換ができれば嬉しく思います。

日々の利用状況は少人数ですが、leaf通所を通して体調の安定を目指し、継続して通所できる場所となるよう、にひとりひとりの目的に寄り添いながら支援していきたいと思っています。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

法人事務局

事務局長 高橋 一則



ひびきの会の会員は、令和6年3月31日現在、正会員が152名、賛助会員が14名となっています。昨年3月と比較すると正会員が5名の増、賛助会員が1名の減となっており、通減状態に歯止めがかかりました。会員の減少は本会の活力と今後の発展を阻害する要因となるため、関係者の皆様のご協力をいただきながら会員増強を目指して参ります。

さて、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日より「2類感染症」から「5類感染症」になったため、令和5年度の通常総会是对面で開催いたしました。また、念願でありました新事業所の建設・移転につきましては、令和5年10月1日から業務を開始しております。

次に、令和6年度の重点事業について説明します。コロナの影響により、ここ4年間開催していなかった「心の輪」チャリティーコンサートを開催する予定です。それから、3年間開催していなかった全事業所交流会も開催する予定です。また、日常活動として、家族が支え合う家族的な役割を含めた家族への支援事業と、障がい者が充実した地域生活を送れるようサポートする本人への支援事業とを車の両輪として、全事業所が一体となり、事業を実施します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

「改めてリカバリ運動を広げよう！」

家族 山口 哲子

会報167号の巻頭言で理事長がF—ACTORの会共催企画「改めてリカバリ運動を広げよう」について述べていましたが、ここでより詳しく報告します。

令和6年3月3日（日）14:00～16:30 県立医科大学において標記のテーマで研修会が開催されました。話題提供者は増川ねてる氏（アドバンスレベルWRAP®ファシリテーターピアサポーター）と片山尚貴氏（株式会社CAREG取締役 訪問看護ステーションけあぐ管理者 埼玉県訪問看護ステーション協会理事）。スケジュールは、①ねてるさんよりアメリカでの学びをふまえたリカバリーについての講義、②ねてるさんと片山さんのリカバリー対談、③フロアーとの意見交換、でした。

WRAP（ラップ）はアメリカの精神障害をもつ人たちによって作られたリカバリー（元気回復）に役立つツールで、日本語では「元気回復行動プラン」と呼ばれている。精神的な困難を抱えた人たちが自分らしくあり続けるための知恵や工夫を蓄積して作られた、自分で作る自分のためのプランが、リカバリープランである。

ねてるさんの話の要約は次の通りです。

- ◆WRAPとは、Wellness（元気）、Recovery（回復）、Action（行動）、Plan（計画）のこと。
- ◆リカバリー（取り戻すこと）とは、変化への一連の取り組みのこと。それは私たちの健康と健全さを高めていくのを手助けし、生活の舵取りの助けにもなるし、人生のすべての領域において自分らしさの全てが発揮されるように働きかけるものである
- ◆クリニカル・リカバリーとソーシャル・リカバリーについて。リカバリーは必ずしも治癒（クリニカル・リカバリー）を必要としていない。障がいが残ったとしても、自分の症状をどう制御した

らいいのか、意味のある人生をどう構築したらいいかに関してもより深い理解に到達できるので、（誰しもが）自分自身の人生を構築すること（ソーシャル・リカバリー）ができる。

◆当事者たちの専門知識から生まれたアイデアがパーソナル・リカバリー、専門職の専門知識から生まれたアイデアがクリニカル・リカバリー。サービスをパーソナル・リカバリーに変容させよう。

ねてるさんは「僕はまだ、リカバリーを知らないのかもしれない」と繰り返したが、私自身も同様なので、これからも勉強を続けたいと思います。

〈参加者の感想〉

ひびきの会相談員の山口哲子さんからのお声掛けで何の会だろうと思いながら参加した。それは何と私が以前から希望していた精神障害を持つ当事者やその家族の為の訪問等による包括的な支援サービスを実現するために、当事者も家族もさまざまな職種のチームの一員と一緒に、住み慣れた地域で自分らしい生活を送れる事を目的とした活動の会でした。

この日の講義では当事者である「ねてる」さん（ニックネーム）による紆余曲折を乗り越え現在ピアサポーターとして全国の精神科病院、クリニック、福祉施設等で活動しているこれぞナイスリカバリーの経験談でした。彼が言うには『リカバリー』の本来の意味は『取り戻す』事であると。そうか、その人らしさを取り戻す事なのだと目からウロコ！ だからこそ今訪問看護利用の必要性を強く感じました。訪問看護事業所も増え始めた事にも希望が見えてきました。ひびきの会を通じて今迄知らなかったことを沢山学ばせて頂きました。有難うございました。（家族 菅野）

娘 鈴木このみ

鈴木 美和子

娘このみは7歳上と3歳上の姉がいる三姉妹の末っ子で、生後3ヶ月から保育所に通い友達と元気に遊び毎日過ごしていました。

小学校入学前検診で、担当者の方と一言も話をする事ができなかったのです。保育所の先生にその事を伝えると驚かれていました。入学後は言葉の教室へ週に1回通いました。学校の先生や友達とは慣れて、話もできる様になりましたが、勉強が理解できていないなあと親と先生が感じる様になりました。そこで、発達の検査を受け、広汎性発達障害と分かりました。小学校3年生から中学校まで特別支援学級へ通い、今年3月大笹生支援学校高等部を卒業し、今ワークショップろんどでお世話になっています。

やりたい事はなるべくやらせたいと思い、小学2年生から3年生までサッカーを習いました。高学年になると、周りについていけず辞めて、次に習字を習いました。習字の先生はこのみのペースに合わせて教えてくださり、小学校卒業まで楽しく習い、習字が上手になりました。中学校では、普通クラスと一緒に卓球部へ入り、友達もできて3年間続けました。大笹生高等部でも卓球部に入り、試合で勝てる様になり、自信になっていると思います。これからも自分でやりたい事を一生懸命にやってほしいです。

今までは学校で時間割があり、先生の指示があり、見守られている生活でした。今は、不安もありますが、ワークショップろんどで社会性を少しずつ学び身につけて、親が居なくても生活していける様になってほしいです。

新入職員紹介

【ワークショップろんど】

相原 結

4月よりワークショップろんどに入職いたしました、相原 結（あいはら ゆい）と申します。名前の「結」のように、皆様ひとりひとりとのご縁を大切にしながら関わっていければと思っております。初めて福祉の世界に足を踏み入れ、まだまだ至らぬ点ばかりですが、一日でも早く仕事を覚え、皆様のお役に立てるよう頑張っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

お茶のまね会報告

5月11日（土）大型連休明け、真夏日の予報も出たこの日は新しい参加者2人を含め11名の参加で行われました。みなさん連休はいかがお過ごしだったのでしょうか？息子と愛ネコとの暮らしになった我が家は、行楽旅行や帰省客でにぎわう様子を伝えるテレビに「そっかあ」と言いながら静かに過ごしました。

自己紹介と近況報告は盛沢山でした。

- 久しぶりにろんどに行ったら利用者から「あなた誰？」と聞かれた。新しい人が入ってきている。忘れられないように時々顔を出すようになった。
- 万年床でアニメを見たり本を読んだりしている。好きなように本人に任せている。親がイライラしていると伝わるので穏やかにするよう心掛けている。首や身体を振っていた症状はストレスがないと出ないようだ。
- 町中のコンビニで屋外にあるコンセント？が壊れていたのをそれを若い店員に伝えたところ、うまく伝わらず逆にあなたが壊したのか？警察に通報するからと言われてしまった。
気が動転しパニックになりながら帰宅した。それ以降、人が怖くなりバスに乗るにも買い物をするにも怖くなっている。
- 連休に関係なく仕事だったが、妹家族や来客があり家が賑やかになったのが息子にとって良かったようだ。
- 症状に波があるも、皆勤賞をもらった。今年度は「少し休んでからにしたら」と声掛けしたがまた今年も始まってしまった。
- 結婚した娘が夫の健康を心配している。「お母さんもこうして私のことを思ってくれていたのね」と話してくれた。
- 昨年末退院後、家でゴロゴロしている。7月の左眼の白内障手術待ち。眼が不自由なので朝起きるのが10、11時と不規則に。W病院の高齢者の集いの場に誘ったら行くようになった。

福島市障害福祉課から紹介されてこられた方からは、大学を途中退学し福島に戻り一人で生活をしている息子さんの相談でした。医療機関や生活保護制度等お伝えしました。

また以前息子さんがS病院でデイケアを経験されたという方からは、仲間同士の付き合いが盛んで、そこから問題も生じたということが話されました。職員の光家さんからは「福島市障がい者地域生活支援ネットワーク」コピー冊子をいただき、いざという時、緊急時の支援が紹介されました。生活保護制度についても触れられました。今回も時間不足痛感。

★ 次回は7月13日（土）10時 ～ 12時 地域活動支援センターデイルーム ★
～ 茶 話 会 ～

話すことはチョットという方も、聴くだけでも歓迎です。どうぞお気軽にお越しください。



「ひびきの会」 あしあと

<令和6年>

- 3月3日（日） F-ACTOR令和6年度総会出席
- 3月4日（月） 令和5年度福島県県北地域保健医療福祉審議会出席
- 3月5日（火） リーダー会議※
- 3月6日（水） 臨地実習教育会議出席
- 3月7日（木） 障がい者ボランティア入門講座出席
- 3月9日（土） お茶のまね会※
- 3月12日（火） 福島市いきいき共生推進委員会出席／福島市社会資源見学ツアー出席
- 3月14日（木） 自立支援審査会出席
- 3月21日（木） 福島県北地区障がい福祉連絡協議会定例会出席
- 3月26日（火） 第6回理事会※
- 3月28日（木） 福島県北地区障がい福祉連絡協議会定例会出席／
授産事業振興会第2回理事会出席／
福島県精神保健福祉センター講師依頼出席／
県北ピアサポーター交流会出席
- 4月9日（火） 福島県立医科大学看護学部精神看護学講義出席／
福島市GH事業所連絡会出席／リーダー会議※
- 4月12日（金） F-ACTOR理事会出席
- 4月18日（木） 研削特別教育受講出席
- 4月24日（水） やさしくわかる！新任担当者のための総務担当者の基礎知識セミナー出席
- 4月25日（木） 自立支援審査会／福島県北地区障がい福祉連絡協議会定例会出席／
第1回理事会※
- 4月26日（金） 給与計算担当者のための所得税・住民税の定額減税セミナー出席
- 4月27日（土） 「リカバリーカレッジ」について知ろう！出席



※内部会議・会合

《人事》

職員氏名	所 属	職 名	内 容	日 付
相原 結	ワークショップろんど	生活支援員	新規採用	令和6年4月1日付

イベント情報

《ひびきの会》

☆お茶のまね会

7月13日（土）10:00～12:00

詳細は6頁を参照ください。

☆家族相談（要予約）

毎週火曜日 11:00～14:00

曜日時間は要相談

家族相談員が相談に応じます。

事前にご連絡をお願いします。

《ワークショップろんど》 《HANA》

★福島市役所・いきいき！ふくしまマーケット

※HANAのみ

日時 6月13日（木）・7月11日（木）

時間 11:00～13:00

場所 福島市役所

★「GARDEN PLACE FESTA 2024」

ガーデンプレイスフェスタ ※HANAのみ

日時 7月6日（土）

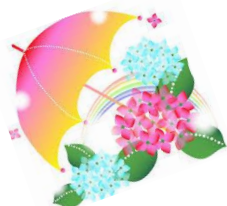
時間 未定

場所 道の駅ふくしま

※販売は不定期で、各所にて行っています。

通常総会を開催します

令和6年度ひびきの会通常総会は、
6月8日（土）に開催いたします。



<編集後記>

新年度が始まり、新生活をスタートされた人も多いこの時期、社会人1年目を思い出します。

新入生研修を受けると、私の席は窓際の1番後ろの席。春の日差しがポカポカと入りこみ、不覚にも大爆睡してしまいました。何度か名前を呼ばれましたが全く起きず、研修生全員に名前を覚えられる恥ずかしい思いをしました。研修後は1番の鬼上司がいる部署に配属。みっちり鍛えられ、一気に学生気分が抜けました(^_^)

ろんど1年生

<お問い合わせ>

ひびきの会事務局 TEL 024-563-7680

ワークショップ ろんど TEL 024-563-3304

支援センターひびき TEL 024-522-6886

HANA TEL 024-584-2920

leaf TEL 024-572-3770

<http://hibikinokai.sakura.ne.jp>

検索する場合は、

福島・伊達精神障害福祉会

と入力してみてください。